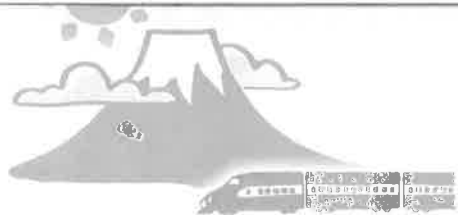




・最終回・
ちょっと憩いませんが。

江口裕之の

日本のことを伝えよう 第6回



今回は、神社についてです。私たち日本人の生活に自然に打ち解けている神社ですが、その存在の意味など意外と知らないことがあるのではないのでしょうか。

今回のお題
神社

1. What are *jinja*?

Jinja are shrines where the deities of Shinto, Japan's indigenous religion, are enshrined. Shinto is polytheistic in nature, and there said to be more than 8 million deities. Shinto has been the center of Japanese culture since ancient times, and many seasonal events, including festivals and rituals, are dedicated to Shinto deities. *Jinja* have been important venues for those events.

2. Are there different types of *jinja*?

Each *jinja* enshrines some specific deities. There are several types of shrines which have different roles. For example, *Inari jinja* promote good harvests and success in business, *Yasaka jinja* help prevent infectious diseases, the *Tenjin* or *Tenmangu* enshrine a god of study, and *Hachimangu* enshrine gods of warriors.

3. Why is purification so important in Shinto?

It is believed that Shinto deities can bring both blessings and disasters. In order to appease the deities so that they bring only blessings, both the deities and the followers need to be purified. In some ways, purification rituals are rational and scientific. For example, Japan's hot and humid climate can easily spread infectious diseases. Pure water, salt, and sake used in purification all have antibacterial effects. You can say that the ritual of purification was born out of the Japanese wisdom about how to live peacefully and safely in harmony with nature.

4. Why do so many people visit shrines and temples in the new year?

The Japanese have the idea that bad fortune goes away with the year's end, and everything becomes new and refreshed with the arrival of the new year. In other words, for many Japanese the new year plays a role in resetting one's life. Therefore, it is particularly important for them to visit shrines and temples at the very beginning of a new year to pray for good fortune in the year to come.

Words and Phrases

- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. deity: 神
indigenous: (土地に) 固有の
polytheistic: 多神教の
ritual: 儀式
be dedicated to ~: ~に捧げられる
venue: 舞台, 場所 | 2. good harvest: 豊作, 五穀豊穡
infectious disease: 伝染病
warrior: 武人 | 3. appease: ~を鎮める
purify: ~を清める
rational: 合理的な
humid: 湿度の高い
antibacterial effect: 殺菌効果
wisdom: 知恵 | 4. bad [good] fortune: 不運 [幸運]
reset: ~をリセットする
pray for ~ to do: ~がdoするように祈る |
|---|---|--|--|

1. 神社って何?

神社は、神道の神々を祭る場所です。神道は日本固有の宗教で、八百万の神と呼ばれるように、無数の神がいる多神教です。神道の起源は、縄文時代から見られるアニミズムにあると考えられます。アニミズムでは全ての事象に精霊が宿ると考え、その精霊によって、自然の恵みも災いももたらされます。やがて、それらの精霊は日本人の中で神へと進化し、また、一族の祖先の霊も加わり、自然神・祖先神として祭られるようになったものです。さらに、大和朝廷の成立とともに、記紀神話と融合して神々の性質や役割が定義されていき、以後、神道は日本文化の中心に位置してきました。

有史以前の原始神道の時代には、山や森や木などに宿るとされる神々を祭るために、臨時の祭場を設けて儀式を行っていたようですが、やがて、常設の社が作られるようになり、現在の神社へと発展してきます。神に捧げられる祭りや儀式など、数多くの年中行事が行われる場所として神社は大きな役割を果たしてきたのです。

3. 神道ではなぜ清めが大切なの?

日本は元来、自然災害が多くて危険な国である一方、豊富な水と大きく変化する四季がもたらす自然の恵みも豊かです。神道の神々は、そのような自然現象を体現したものと考えられ、恵みをもたらす穏やかな側面を持つ一方、災いをもたらす荒々しい側面も持ち合わせています。神道の儀式の多くは、神の荒々しい側面を鎮めることで、恵みを十分に引き出すことが目的であり、清めはその中で最も重要とされる儀式です。

一方、清めの儀式には合理的で科学的な側面もあります。例えば、日本の夏は高温多湿になり、伝染病や食中毒が広まりやすくなります。清めに使われる水、塩、酒は、いずれも殺菌作用があります。清めの儀式は、自然と折り合いをつけながら、平和に安全に生きていくための日本人の知恵から生まれたといってもいいでしょう。

日本人は儀式のように毎日風呂に入るとか、執着したように手を洗ったり清掃をするとよく外国人から指摘されますが、これらも清めの儀式の一環として、また、科学的にも衛生と安全を保つためのごく自然な発想と説明できそうです。

いかがでしたか。さて、1年間にわたりお送りしたこのコーナーですが、今回で最後となりました。皆さん、また次の機会にお会いしましょう。

著者プロフィール

江口裕之 CEL 英語ソリューションズ 最高教育責任者
1957年長崎県生まれ。国立北九州高専化学工学科卒業後、プロのミュージシャンとして全国で演奏活動を展開後、通訳・翻訳家に転身。1989年から一貫して通訳案内士の育成に携わる。2001年、東京にCEL 英語ソリューションズを設立。2009年よりNHK Eテレ英語教育番組「トラッドジャパン」講師。著書に『新・英語で語る日本事情』(The Japan Times)ほか多数。音楽CDに『My Good Ol' Songs』(アソルハーモニクス/RADIO-DAYS)。

2. 神社には種類があるの?

神社は、祭られる神やその起源・性質によって、いくつかの種類に分けることができます。まずは、「お稲荷さん」と呼ばれる稲荷神社があります。全国各地にある稲荷神社の総本社は京都・伏見区にある伏見稲荷神社で、無数の赤い鳥居がずらりと並んだ参道は外国人にもよく知られています。稲荷神社は稲荷神を祭っており、その使いの白い狐がシンボルになっています。五穀豊穡、商売繁盛の神として企業やデパートの屋上、商店街の片隅などにもよく祭られています。

八坂神社の総本社は京都の祇園にあります。かつては仏教の神の牛頭天王と神道の神のスサノオを一体として祭っており、祇園神社と呼ばれていましたが、明治時代の神仏分離令によってスサノオだけが残り、名称も八坂神社となりました。その神の信仰から始まった疫病退散の儀式が祇園祭です。天神社(天満宮とも)は、平安時代の学者、菅原道真を祭っており、今では学問の神とされています。また、八幡宮は平安時代から鎌倉時代にかけて武人の神として、武家の崇拜を集めるようになりました。

4. 新年になぜ多くの人が神社やお寺にお参りするの?

さて、神社の話から話題を拡大して、寺社への初詣について考えてみましょう。特定の宗教を持たないという日本人は多いのに、正月には寺社は参詣客でごった返します。どうしてでしょうか。ここでは、日本人のものの捉え方の根底にあるアニミズム的発想から答えを探ると面白いかもしれません。アニミズムの考えでは、万物が霊的存在を内包し、その姿は消滅・再生を繰り返していきます。このような考えが生まれた背景には、日本では四季の区別が明確であることが挙げられるでしょう。

例えば、人の一生も、年の初めに新しい命が生まれ、春に大きく成長し、夏に最盛期を迎え、秋に衰退し、年末に消滅するという四季のサイクルに例えることが多いようです。そこから正月とともに全てが消滅・再生し、いわば全てがリセットされるという観念が生まれたと考えられます。つまり、日本人にとっては、初詣、初日の出、初釜、書き初めなど、1年の最初に行うものが最も清浄で最も大切なものという概念があるのでしょ。

